

さど さざりゅう きょうげん けんきゅうかい

「佐渡鷺流狂言研究会」

新潟県指定無形文化財

令和 7 年 6 月 15 日草苅神社新能

設 立 昭和 54 年
抛 点 佐渡市金丸
会 員 12 人



「鷺流狂言をやってみよう」
という方は佐渡文化財団まで
お気軽にご相談ください

Tel 0259-58-9112

狂言は猿楽の滑稽みを洗練させた笑劇で、能と式三番とあわせて能楽と総称され、室町時代初期に、能と狂言は猿楽から分かれて発生したと考えられています。

“狂言”とは仏教用語の「狂言（道理に合わない言葉）綺語（うまく飾った言葉）」に由来するとされ、滑稽な振る舞いや冗談、人をだます振る舞いを指す言葉となり、南北朝期には滑稽で戯画的な人物表現、つまり物まねの性格が強まりました。

鷺流とは、狂言の流派です。10 世鷺仁右衛門宗玄（1560～1650）により即興的（当座的）で奔放、写実的な芸風で成立し、代々宗家は仁右衛門の名を継ぎました。江戸時代は鷺流・大蔵流・和泉流の 3 流があり、鷺流は徳川幕府の御用をつとめ、慶長 19 年（1614）年に宝生座付から、観世座付の狂言方となります。以後 19 世まで続きましたが明治維新後の混乱期を経て鷺流は瓦解し、19 世の死を以て宗家は廃絶し、分家も事跡不明、大正末期には中央の狂言界から消えました。

一方、佐渡・新潟・山口・若狭・佐賀など地方には鷺流の伝承地域がありました。佐渡には明治初期に 19 世権之丞が佐渡の弟子たちを訪ねたといわれており、宗家仁右衛門の流れを汲む狂言が色濃かったと考えられます。昭和 30 年代に消滅したと思われましたが、昭和 50 年代に旧真野町で伝承者が発見されたことにより再興され、保存団体の「佐渡鷺流狂言研究会」が発足し、後継者育成と狂言本の翻訳・研究活動を行っています。

テーマ：”佐渡に残っていた流派”

鑑賞のポイント

- ・ 太郎冠者は仕事が面倒になり、主にうそをついてごまかそうとしますが、それがもとでとんでもないことになります。
- ・ 狂言は素顔で演じる芸能ですが、今回は面をつけた者が登場します。それはいったい何でしょうか。

ワークショップ・・・“名乗り”を体験しよう！…「〇〇はこのあたりの者でござる」

“笑い”を体験しよう！…狂言独特の笑いを腹の底から！

舞台に上がった方・・・“道行”（みちゆき）を体験しよう！…舞台を三角にまわる

佐渡文化財団主催

佐渡芸能に触れてみる一時間 第四回 佐渡に残っていた流派

令和七年八月十日(日)

午後二時開演 午後三時終演

佐渡鷺流狂言研究会

番組

午後二時

清水

シテ・太郎冠者 後藤一安

アド・主 柴田剛宜

午後二時四十分

後見 佐々木真一 村川登志郎

わあくしよつぷ

・名乗り
・運び
・笑い